

166

特277-611



*76W10550 *

特277

611

非常時に際して全國民に訴ふ

元 壽府會議首席全權
前衆議院議員 松岡洋右氏述

このパンフレットは昭和九年四月六日夜縣會議事堂に於ける甲府市在郷軍人聯合分會主催の時局講演會に於て試みたる松岡氏の講演速記である。

又新社發行



始



3



非常時に際して全國民に訴ふ

松岡洋右氏述



目次

一、聯盟脱退は天意に依る……………	一
二、この進退にすら狐疑逡巡……………	六
三、余が全行脚を志す理由……………	一〇
四、我國非常時の兩面……………	一四
五、世界的變局の主因……………	一六
六、生きんとする露國の懺み……………	一七
七、將來を豫斷し得ない獨、伊……………	一九
八、佛蘭西の非常時意識……………	二二
九、今は昔の大英帝國……………	二三
十、ドン底の不景氣に喘ぐ米國……………	二六
十一、米國全土に燃える非常時意識……………	三〇
十二、翻つて支那を見よ……………	三三
十三、物質文明の剖判……………	三六
イ、貞操觀念の低落	三六
ロ、自由主義、個人主義の痛弊……………	三六
十四、農村は國家の原動力……………	三九
十五、先づ救済の雰圍氣を作れ……………	四〇
十六、我國内の大種事情……………	四四
十七、歐米人の大和民族觀……………	四六
十八、我が外交上の危機……………	五〇
十九、危いかな人心の弛緩……………	五三
二十、昭和維新斷行の秋……………	五五
廿一、政黨解消論の根據……………	五九
廿二、あゝ向ふ五ヶ年……………	六三

76W10550



私は御紹介を受けました、松岡洋右でございます、今晚斯様に多勢の方々が無々私の話を聞く爲にお集り下さつたことは私の頗る光榮と思ひ、かつ感謝するところであります。殊に今晚場内に入れないで、外に立つてお居でになる方々に對しては誠にお氣の毒であります、私は出来るだけお話を簡単にいたしますから御辛抱を願ひます。

又今晚この講演會を開くについて、容易ならぬ御斡旋の勞を取つて下さいました在郷軍人の方々、その他の方々に對して厚く御禮を申し上げます。

一、聯盟脱退は天意に依る

それから今晚の講演に入ります前に、特に皆様を重ねて御禮を申し上げたいことがあります。それは昨年春ジュネーヴから歸りましたとき、昨年五月一日の夕方取敢へず全國民に對して歸朝の挨拶をしました、その放送の中で、私はジュネーヴの會議の第一線において微力乍ら我々が闘つて居りました間、絶えず熱烈なる後援と激勵を全國民から賜はつたことに對して、一應は御禮を申し上げて置きましたが、今晚この甲府の地に参りまして皆様方に始めて親しくお眼にかゝりましたこの機會に、この事について私は又重ねて厚く御禮を申し上げて置きます。(拍手)

私は昨年五月一日夕方の放送の中でも全國民にお詫びを申上げて置きましたが、首席全權たる私が諸君の御期待に副ふことが出来なかつたことは何とも申譯ありません。

今日もなほ私は自ら顧みて微力なりしことについて甚だ恥ぢ入つてゐる次第であります。

他にもいろいろ理由はありましたが、當時私が復命を終へますと、直ちに郷里に歸つて、爾來他人様の中に顔も出さず、殆ど蟄居の考へを以て引ツ込んで居りましたのも、一は私が昨年春歸りましたときに、わが國民が感謝の情を示される度に、洵に恥ぢ入つて心苦しく思つたからであります。之は只徒らに謙遜の辭を用ゐたものではありません、私は今日と雖も國民から感謝さるべき何事もなしたとは思ふて居りません。

私も外國人ではない、日本人、日本臣民である。日本臣民として、あれだけのことを言つたり、したりするところは當り前である、山の中の農夫と雖も、苟くも日本國民である限り、外國人に解らなければ通辯を使つて、あれ位の事は言へる、あれ位のことを言つて何が立派か、西洋カブレのした混血兒なら兎も角、本當の日本人が、日本人の言ふことを言つたまでである。私は混血兒にはなつて居らない。日本人だから、あれだけのことを言ふのだ、當り前だ、之が外國人で、あれだけのことを言つたらチツトは私に感謝してもいいが、自分は日本國民だから、考へやうによると、私を外國人扱ひに

するところは甚だ侮辱してゐる。(笑聲)

私は別に國家のために致した覚えはない、當時の同僚、及び部下にはお氣の毒であつたが左様に感じてゐる。

只今顧みて聊か自らを慰めてゐる点は、東京出發前に全國民に告別の辭を述べましたときに申上げて置いたのでありますが、所謂「外交」なるものを私はやる考へで参つたのではない、只多少とも日本人の裸形を歐米人に見せやうと考へて行つたのであります、それをチツトは見せた考へであります、又、その時お約束して置いた六十餘年來の追隨外交だけは清算する、これだけは、私は聊か出來たのではないかと思ふのであります、それからあの上、膝を屈せずとも宜しかつたと思ふのであります。

只私はジュネウヴで最後まで微力のある限り、帝國政府の御訓令を奉じやうと思つて、私は同僚及び部下の助力によつて努めたのであります。即ち當時帝國政府の訓令は、出來るだけ、わが國の地位を護りつゝ、妥協して圓滿に解決して聯盟に残るやうに……かういふことである。私個人の意見は、東京出發前から、不變であつたのであります、しかし、私がいよく帝國の首席全權で参ります以上は、この政府の訓令だけは奉じなければならぬ。故に同僚や部下の助力によつて、出來るだけ努めて見たのであります。けれども、或る時期に達しますと最早決裂の外なく、而して又脱退することが

わが帝國の爲めであるといふよりも、寧ろ聯盟脱退といふが如き、これは實はわが國が八十年前開國して以來、未だかつて敢て取つたことのない、一番大きな外交的進退である。かゝる大きな進退は人間の智恵、才覺で出来るものではない。如何に人間が之を防がうとしても、之れが運命であるならば防げるものではありません。又人間の智恵才覺で敢て脱退しやうとしても、之が運命でないならば決して出来るものではありません。而して遂に脱退の外なしと私が觀念した時に、之は天意である。斯様に私は觀念したのであります。そこで天意を觀念した瞬間から、私は同僚とも語り、部下の意見も徴し、もう脈はない、脱退の外なし、今後はせめて日本人らしく引きたい。一切の、所謂外交は要らない、未練が残つたといふやうに思はれやうなることはしてはならない、さういふ意見を述べましたところ、幸ひ當時の同僚及び部下一同もこの意見に同感の意を表してくれましたので、爾來數日は一切の所謂外交工作を打切つて、徐ろに引揚げの日の來るのを待つてゐたのであります。

この内輪の経緯を知らない人は、外から見ても、なぜ當時のわが代表部はまだ妥協の餘地があつたにも拘らず、何の外交工作も取らずに、無能で日を送つたかといふことを、聊か難詰的の口吻で考へてゐる人もありました。今日私は發表いたしますが、左様な考へで、せめて散るなら櫻の花の散り際の如く、日本人らしく引かう、私はかう固く考へてゐたのであります。そして之は天意である、而し

て、その天意であるところは何であるか、この意義は何であるかといふことを考へて見たのであります。そしてこの二つの点には實に大きな意義があるを解釋したのであります。

その一つは世界的の意義、言葉を換へていへば、國際的の意義であります。この事は今日も尙私の立場からは、公開の席で申上げることを差控へることが日本の爲めであると思ひますから、遺憾ながら、私は今晚申上げることは出来ません。之は十年も経つたら成ほさあそこに天意があつたといふことを、あなた方だけではない、世界の人が悟るであらう私は信じてゐます。之は御想像に難くないと思ひます。

さういふものか、私が述べることを、書くことを、著すものは、東京で、外國新聞記者や、通信員が直ちに翻譯して外國に送る、ある場合は電報し、少くとも通信するのである。日本の迷惑になることは遺憾ながら今日の地位で、公の席では申上げることは出来ません。この点は御諒察願ひます。

もう一つの意義については、昨年五月一日の歸朝の挨拶中で私は申上げたのであります。即ちジュネーヴの外交戦の如きは、わが國難から之を申しますれば、ホンの序幕で、三番叟たるに過ぎないのであります。まだまだ之から聯盟における戦ひの、何倍か大きな外交戦が押し寄せて來るのであります。それに對して天がイヤでも應でも、この際聯盟を脱退せしめ、之によつて、わが國民の心を引締

めて、そしてこの將に來らんとする大外交難に堪へるだけの準備をおさせになる思召である——斯様に私は觀念したのであります。

元來私といふ男は、日本國民に言ふことと、歐米人に言ふことと、支那に言ふことを二座にして區別することの出来ない男である。昔から日本人に言ふことは、外國人にも言ふ男である。その事はジュネーヴで御覽下さつたことと思ひます。だから昨年二月二十五日に、私がジュネーヴを最後に引揚げます時に、世界に向つて公表した、ジュネーヴ告別の辭の中にも、今の事はハツキリ書いて置いたのであります。

即ちこの暴戾なる聯盟の行動から、やがてわが國民が心を引締めて、我々の前途に横はつてゐる使命のいよく重大であり、いよく困難であることに氣つき、そして日本國民がまずノノ一致結束するだけの覺悟がついたならば、わが日本國民は、將來聯盟の、かゝる行動に對して、お禮を言ふだけの理由を發見するだらうとハツキリ世界に向つて言つて置きました。(拍手)

二、この進退にすら狐疑逡巡

そして當時私は遙かに、わが祖國を振返つて、あなた方國民は、當時殆ど悲壯なる御決心をなさつ

たものであると信じたのであります。よし、世界を擧げて立ち向つて來ても、苟くも我々が正しいと信じた途は斷々乎として進んでやるぞつ、所謂自ら顧みて直くんば千萬人と雖もわれ行かんといふ意氣、御決心を持たれたものと、私は信じたのであります。所謂さうであつたに相違ない、わが國民の大部分は……所謂大衆の關する限りは……。

そこで私はせめてもの慰安をこの事に求めながら歸國の途に就いたのであります。そして六十餘年來の追隨外交を清算した以上、これから國民的自主外交に邁進せねばならぬ。それについて若し多少の參考にもならばと思ひ、ヨーロッパの主なる國の現状を視察し、又殊に敵にするにしても、味方にするにしても、將來日本に取つて最も重大なる關係を持つてゐるころの、米國の實情を視察するためには態々道を米國に取つて歸つて來たのであります。

道すがら、又日本の立場や、意見を、之等の國々に一層明らかにすることが出来るならば、それかもしれないふ考へも持つてゐたのであります。

で、だんくくくと旅行して日本に近づいて來る。日本に近づいて來れば來るほぎ、今申しました私の信じて居つた日本國民の決心といふものについて疑ひを生じて來たのであります。と申しますのは、三月二十七日の夕方、私が全國民に聯盟脫退通知の一周年に際して放送した中にも申し上げたの

であります。私が帝國政府の訓令の下に、普通の代表部引揚げの意義を異にして、それをハッキリさせて引揚げてくれまいか訓令の下に、二月二十四日聯盟總會で最後の演説をして、ついで帝國政府の聲明を發し、そして翌二十五日にジュネーヴに別れを告げたのであります。ところがヨーロッパの主なる國々を旅行し、そして大西洋を横切つて米國のニューヨークに着いたのは、その後小一月もたつた後でしたが、聯盟脱退の通告が出る様子がない。ニューヨークに着きますと、米國の新聞記者は最もこの点について、私に向つて質問を發するのであります、それは無理からぬことであります。

ジュネーヴを引揚げたのだから、日本は聯盟をさうするかを、その全權に尋ねることは當り前である。私は日本政府の訓令によつて一切言及しないこととしてあるので、何も言へないさ答へる外はない、不思議なことで……そこで米國の新聞記者連は「ハハアこの日本の首席全權に尋ねても一向要領を得ない位だから、日本は考へ直して、聯盟を脱退することはしないだらう」と、解釋したのであります。さう思ふことが私は常識だと思ふ。あゝいふ場合に先出の首席全權を引揚げさせて、普通代表部の引揚げを誤認されないやうに引揚げてくれまいか訓令……役人は異様な言葉を使ふが、我々普通の人間には、脱退の意味を明かにして引揚げるといふことである。私も役人を永年やつてゐたので、役人の使ふ言葉は判る、それで判つたやうな判らないやうな態度で引揚げた。(拍手)

これすら實はお恥づかしい話なのであります、そして一月経つ。一向聯盟脱退を通告するやうな様子がない。さうさう丸一月経つて、昨年三月二十七日、私のジュネーヴを引揚げたのはその前月の二十五日、やつと聯盟脱退の通告が出た、私は始めてヤレ／＼と思つて安心したのであります。(笑聲) その事はこの間の放送にも言つてございますが、あれは短くつて、全体的にはお判りにならなかつたと思ふ。この聯盟の経緯で、御諒察下さつて思ひ當つたことと思ひます。

日本の聯盟脱退は恐らくあなた方、國民の思ふほご立派なものではなかつたのであります。ドイツ等は脱退すると言へばスツと脱退する、軍縮會議もついでに綺麗に左様ならする、立派なものです。日本の引き方は霄壤の差があります。(拍手)

櫻の花の散り際は、子供の時から母親に教へられた。これは大和民族の散り方ではない、あれだけの御維新以來の一番大きな國の進退においてすら、今日の日本の指導階級の人達は、只狐疑逡巡あるのみである、少くとも歐米人の眼に映じた姿はかうであつた。今申した米國の新聞記者が日本は考へ直して脱退せぬだらうと思ふやうな狐疑逡巡の姿だ。遺憾ながら、わが帝國は歐米に對し、この重大な進退にすらかくの如き姿を示したのであります、之を恥づかしいと思はぬ者は日本人ではない。(拍手) そんなら歸つたときに……去年なぜ叫んでくれなかつたかといふかも知れない、私は當時國民の、あ

の感激の渦の中で、當時之を叫んだら一体内閣はさうなつたか、怪我人は出なかつたらうか？ だから私は言はなかつたのである、さういふ事は嫌ひだから炬燵に引ッ込んでゐる。さういふのは過去を追つても仕方がない、我々は過去を追ふべく餘りに忙しい、今はスピードの世の中である。

しかし今晚この事を諸君に先づ眞つ先にお話しするのは、一年を経た今日では、あなた方もかゝる事については冷靜にお考へになることが出来ると思ふから、私は始めて申上げるのである。

お互ひの姿を顧みて果してあれが立派な姿であつたか？ 問題ではありません。よく日本人は、歐米人を認識不足だと言ふけれど、實は歐米人から、そんなに、私も言はれた。さつちが認識不足だか判つたものぢやない。自分がシミツタレタ態度を取つて置きながら、歐米人が、俺のことを立派だ、正しいと云はなかつた。怒る方が、餘ッ程認識不足である。

三、余が全國行脚を志す理由

五月一日夕方の放送でも言つた通り、禍は外にあるのではない、内にあるのだ。その後、始めて再び口を開いた昨年九月十八日、滿洲事變第二周年記念放送においても、我々國民は須らく、伊勢の大廟にお詣りして、心鏡に映ずる自己の眞個の姿を見直して、その形を正せと言つた所以であります。

そしてその後一年、さうなつたか、獨り指導階級が悟らないだけではない、わが國民にも亦、その後何にも大した事は起らない、少康に馴れてしまつたのであります。それで政界の人なんか、卅五、六年の何處に癢があるのか言ひ出した、何の心配もないではないか言ひ出した。又筆を執る外交評論家も、外交のガの字も出さず、疊の上で游泳しながら、只外國の書物位讀んでゐるに過ぎない。お負けに外交を論ずる人達は、商賣にならぬことは何もしない。かういふ人達が互ひにわが國の外交國難はそんなに憂ふることはない、外交工作で大概切抜けられるといふことを言ふやうになつた。

六千五百万の大和民族の中に、十人や二十人、さういふ事をいふ人のあることは毫も不思議ではない、私はそれを咎めるものではありません。私の憂ふる点は、さういふ事を言つたり、書いたりするだけ、國民の氣が緩んで來たのである、といふその事である。

今日の政治家にして、又は國民を擧げてこの事に反對し、又は信ずるところを斷々乎として言及し執筆する人に、左様な心掛けのある人が何人あらうか。居つて欲しい、けれぎもない。今日の政治家或は筆を取る人は、國民の顔色を見ては書き、見ては言ふ、といふ様な傾向が現れ、昨年の十一月頃からソロ／＼出たのは、取りも直さず、國民が、一時は世界を擧げて日本に向つて來ても、戦ふといふだけの悲壯な決心をした國民が、其後何も格別のことが起らないので、氣が緩んで來たといふ立派

な証據である。

斯様に見れば、わが國の前途を憂へざることを得ないのであります。私は今なほ信じてゐる、來年からいよ／＼軍縮會議が始まつて、之を境界に、わが本當の國難が三十五、六年に來る……それが七年に來るか、又その前に來るか、そんな事は神ならぬ身のハツキリしないが、大體の見當は三十五年……國民の心が緩んで、戰爭しても、何の不安があるか、心配があるかといふ言葉の方が、多く耳に入るやうになつて來ては、ジュネーヴの戰よりも何倍ものドエライ戰に會つて、さうして無事に切抜けるこゝが出来らうか、之が私の憂ふるところである。

一つはそのために私は已むに止まれず、昨年十二月八日寧ろ豫期に反して、卒爾として政黨を脱し衆議院議員をも辭めて、いはゞ私の一切の過去を清算して丸裸の身を以て街頭に進出し、全國行脚の途に上つたのであります。

私が昨年春から歸朝以來、郷關三田尻に引籠りました理由は多々あります。その一番大きな理由は聯盟から引揚げて参りまして、今先申しましたやうに、歐米諸國の國情を見、言葉を換へていへば、世界の大變局の實狀の一端を觀測し、遙かにわが祖國の姿を振返つて眺め、そして東京に着いて、東京の現状を見て、更に將に來らんとするところの大國難に直面して、果して、我々に之に堪へ得るだけ

の準備が成るか、これを無事に乗切る事が出来るか、この事を考へるために引込んだのであります。

この頃、日本では小ざかしい人が余りに多い。之れ我が國國難の一つの現れで、殊に、東京邊には余りにも小懶巧の人が多し。何處の國でも、何時の時代でも、非常な國難に直面した時に、人間は智慧が浮くものではない。政黨解消位で維新斷行が出来たり、國難切抜けが出来たり、斯様なこゝは、人類史上未だ曾てない。私は少々馬鹿の人でもよい、晝行燈ひるあんどんのやうな人が欲しい、大西郷おほにしむらみたやうな人が欲しい。一体、かういふ人が今何處にあるのか？ 私の政黨解消論に對してさへ、何をトボけた事を云ふかといふ聲が大分聞えてゐる。あれは氣が少々さうかしたのではないかと云ふ。私は未だ正氣を失つてゐない。十年経つたら判りませう。私は少くとも郷里に引込んで、爾來半歳、讀書し、靜思し、考へに考へ抜いて、もう之れしかない、已むに止まれず、昨年秋より、先刻申上げたやうな已むに止まれぬ理由から、五十五の私は、既に中老ではあるが、その衷心の思ひを阻止するを得ず、私は遂に豫定を狂はして、卒爾として、昨年十二月八日、敢て脱線した。已むに止まれぬからしたのである。

さういふ譯で、已むに止まれぬかといふならば、先刻申した所でも略々御想像せられてをられませうが、そのモットーはこの非常時であります。そこで、私が、この非常時をさう見てゐるかといふ

事を、豫めあなた方に申し上げます。

四、我國非常時の兩面

この中には、政黨の方も居られるでありませう。いや、私にしたところで昨日までは政黨人である日本國民である。政黨人は支那から雇つて來たのでも、米國から雇つて來たのでもない。政黨人もわが國を害ふ事を希望してゐる譯ではない。この國をさうしたらよいかと憂へてゐるこいふ事をば、私は信じてゐる。日本でも、非常時、非常時盛んに云つたが、今はもう、非常時ではないと云ふ人もある。一体、非常時とは何ぞや？ わが國民は、一体正確に、その正体を擱んでゐるのか？ 多くの人は、非常時は不景氣と同じであると考へてゐるらしい。が、他の事は兎も角、わが國民は非常時こいふ事だけに對しては、さうか正確な觀念を持つて頂きたい。言葉を換へて言へば、非常時意識にだけは目醒めて頂きたい。今日非常時意識に本當に目醒めてゐない所の文明人は、世界廣しき雖も、たゞ日本人あるのみである。このまゝ我々が非常時意識に目醒めずに行くなれば、洵に憂慮に堪へない。非常時とは何であるか？ 私は非常時を二ツに分けて考へるこ、判然すると思ふ。

一ツは世界を擧げての非常時である、獨り日本だけではない。畏くも昨年三月廿七日に國際聯盟脫退通告に際して煥發されました御詔勅の中に「方今列國ハ稀有ノ世變ニ際會シ」と 今上陛下が宣ふておいでになる。これだけは、あなた方、只一年しか経たないのだから、よもやお忘れではあるまい。けれども、今日の日本の政界人、或は實業家、その他の方面の人を見るこ、もうこの御詔勅を賜はつた事すら、忘れてゐるかの如き有様である。御詔勅こいふものは、御慰みに只出されるものではない。御詔勅こいふのは、何れの國に於ても、非常に重大な文書であつて、言葉を余程慎んだものでありませう。その中にさへ、方今、列國は稀有の世變に際會し私をして言はしむれば、方今世界を擧げて人類史始まつて以來、曾て見ざる大變局に臨んでゐるのである……と云ふのである。之が世界を擧げての非常時こいふものである。第一あなた方には、之に目醒めて貰はなければならぬ。これが我が國の所謂非常時こいふものゝ半面である。ナンこなれば、我が國も亦、地球上に國をなしてゐるのであり、従つて、世界を蔽ふてゐる所のこの變局空氣、非常時空氣を吸ふまいと思つても、吸はない譯にはゆかないからである。あなた方の中で、空氣は全然目に見えないから、私は吸つてゐないのだこ言ふ人はあるまい。世界を蔽ふてゐる所の世界大變局の空氣、これを、地球上に國をなし、しかも一定水準以上の文明を持つてゐる所の、わが國民が知らぬ存ぜぬ云つても、それは許されぬ——これが所謂非常時の半面である。

それから後の半面、これは、わが國特有の事情から生じた國難非常時である。そのわが國特有の事情から生じた非常時、または國難は、これを國內的と、外交方面と二ツに分ければよいのである。かやうにお考へになれば、やゝ非常時の正体を、お掴みになる事が出来るのであらうと思ふ。私はこれから、聊か之等について、自分の見る所を述べよう。

五、世界的變局の主因

世界を擧げての大變局とは何であるか、あなたの方の中には、それは世界を擧げての不景氣と仰有る方があらう。恐らく歐米人も今なほ多少その位の考へでゐる。何故といふに、これは歐米、特に米國人が現在物質に非常に偏して來た反映である。物質的苦況もよく考へない様に、人口は増加した。そこで不景氣が一番目の前に判るものであるから、これを世界的不景氣、世界的變局と履き間違へてゐる人があるのである。我々は東洋人であります、殊に日本人であります。彼等よりも精神的に物を見る力を持つてゐる。その我々から見れば、不景氣の如きは、たゞ經濟界に現れた世界變局の一つの現れにしか過ぎない。この間まで、日本でも、さういふ政治家があつたが、歐米でも多くの政治家、經濟學者は、昭和五年來世界を襲ひ來つた不景氣を、從來の如き不景氣と同一視して、景氣循環論で説明

し去らうとしてゐたのである。所が、年月が經つて見ると、さうもこれでは説明し盡くす事が出来なといふ事が、段々明らかになつた。これには、もつと深い原因があるといふ事に氣がついて來たがそれでも、未だ大分歐米人は、物質的であるために、不景氣を非常時問題にしてゐる。私から言へば不景氣は末である、もつと深い精神方面に、その原因を求めなければならぬと思ふ。私は、世界を擧げての變局とは、物質に偏重した現代歐米文明をその本とし、その大部分を占めてゐる所の、現代文明の行詰りに外ならない。現代文明が全速力を以て、自滅自殺に向つて突進してゐるのである。その突進の過程に行き悩んでゐる姿が、全世界を擧げての變局といふ事である。(拍手)斯様に私は見てゐるのであります。

六、生きんとする露國の惱み

これから、私が左様に結論してゐる所以を、少しばかりお話ししようと思ふ。その前に極く簡単に世界を擧げて……歐米を擧げて悩む姿の輪廓だけを、お話ししよう。先づ隣の國のロシアですが、あれは變局ではないでせうか。非常時ではないでせうか。ロシアを世界の一片として、見てはいけない。ロシアの國土は、わが國の十何倍がある。人口は一億六千萬人、これをひつさげて、スターリンその他

が、未だ曾つて人類史上前例なき大規模の上に、共産主義を實現しようとして、既に十六年やつてゐる。しかし、一億六千萬の人口を擁して、これだけの國を持つて、そして、この共産主義を敢て實現しようとして、非常なる努力を、既に十六年にも亘つて続けつゝ、今尙斷々乎として之に邁進してゐる。いふ例は、人類史に未だ曾つてない事であらう。その事の、よい、悪いは、別問題であるが……。

私は共産主義を、政治的に、社會的に實現するといふ事は、不可能の事と信じてゐる。この間も、ロシアを通つた時、ラデツク氏に、我々日本人は祖先傳來共産主義だと話したものであるが、私は、子供の時から、親の物は僕の物、兄の物も僕の物と思つてゐた、それから、さうかするに、親戚の物も自分の物と、それが段々多くなつて來るに、一寸他人の物も我が物の様な氣がして來る。これを稱して、私は若い時から道德的共産主義者と言つてゐる。今、日本には革新機運が漲つてゐる。この革新が行はれた暁には、われ／＼は純乎たる日本人に立還らう。そうしたならば、我々祖先傳來の道德的共産主義も判然する。(拍手)

ロシアの人に度々言つたことであるが、見様によつては、共産主義といふ事は、現代文明の行詰りであります。物質文明……親子でも、財産は別だ、況んや兄弟以下は他人であります。夫婦の中でも財産は別だ。細君の金を、亭主が一厘でも手をつければ、胸倉を取る位の騒ぎではない、法廷で争ふ。

イザミなれば警察に突出して、赤い着物を着せることも、敢て辭せぬといふのである。(笑聲)本當です、之では夫婦の關係は一体どこにあるのか？ 財産の問題になるに、歐米人はそこまで行く。それに對する反動で、ロシアは極端なる共産主義となつた。すべて物は據つて來るにころがあります。ロシアも氣は違つては居ない。極端に走つて、反動を起した、政治的社會的の共産主義であります。之を見様を變へて云へば、現代文明で行詰つたロシアでは、生きた人間が、なんミかして助からう生きやうと考へて、眞ッ暗闇の中で、光明を發見しよう、生きる途をどこかに發見しやうと漢掻いてゐるのだ。その悩み、その努力が、あのロシアのソビエト主義であり、現代文明の行詰り、悩みの一つの大きな現れであります。

七、將來を豫斷し得ない獨、伊

之だけお話しすれば、大概、歐米の現代文明の實相はお判りになると思ひますが、序だから主なる國を覗いて見ましよう。イタリーは十一年前、ロシアの跡を追つて、共産主義で大混亂を起さうとしたのであります。その時、ムツソリーニは社會主義者であつたが「わが祖國イタリーを如何せん」と過去の社會主義も、何もかも柵に上げて、黒旗を高く掲げて、イタリーを混亂から救つたのであります。

す。そして私はイタリアに行つて驚いた——國家至上主義の下に、國家に對する義務を奉公し、犠牲あるのみを知つてゐるのは、イタリアの今日の青年であります。このイタリア人の變り方には、非常に驚いたのであります。では、イタリアは、萬々歳であるのか？ いや然らずで、今なほ現代文明の悩みを續けてゐるのであります。今なほ非常時であります。一体、一國に、ムツソリーニ氏の如き絶對獨裁政治を行ふものがあること自体、常時であると思へましようか。非常時なればこそ、あんな獨裁があるのであります。あの獨裁政治……さう御覽になつても、イタリアは常態ではない、非常時であることは明白である。しかし、危急に迫つたイタリアを、少くも十一年間いふもの救つた、驚くべき變革をなしたが、あんな獨裁政治いふものが、何處の國へ行つても常時だとは云へません。大變な非常時であります。まだ／＼之からさうなるか、今から豫斷するには早い。國民の生命は個人生命より非常に永い。タツタ十一年の成績を見て、將來を豫斷することは早計である。況んや、ドイツの如き、ヒットラーがタツタ一昨年頭を擡げただけで、之を以てその將來を豫斷することは早いのであります。

なぜヒットラーが、あれだけになつたか？ 之またドイツは非常時に外ならない。殊に歐洲大戰で負けて、非常に重い賠償金を課せられた。そして國內にも、幾多の問題が山積してゐる上に、御多聞

に洩れず、ヨーロッパ文明の行詰りの悩みを持つてゐる。いはゞドイツは國難の二重奏である。行詰つて來た、沈むか、それとも死ぬ前に、あるだけの力を揮つて、一搖れやつて見るかといふ瀬戸際まで來たのであります。ヒットラーは、十數年あの運動をやつて來たが、却々頭を擡げられなかつた。それが丁度そこに來たのであります。言葉を換へて云へば、之はドイツ國民は、もうこのまゝでは沈んでしまふ、亡びてしまふと、非常時をハツキリ感じた。その潮に乗つたのが、一昨年からのヒットラーであります。これこそ非常時を明白に物語つてゐるではありませんか。

八、佛蘭西の非常時意識

フランスのやうな國ですら、私の申上げる迄もなく、ポアンカレだけの、あの力を持つた政治家が立つてゐる間はよかつた。フランスには、昔から我々のいふ政黨政治はないのであります。小黨分立である。例へば、英雄待望政治である。英雄が出て來ると、小黨を糾合する。フランスには、一日で倒れた内閣が幾つもあります。わが國には、一日や二日で倒れた内閣は明治以來ない。あれは英雄待望政治の結果である。ところが、今度は細々してゐる。なんといつても、フランスはドイツを歴史的に仇敵視してゐる。ドイツも虎視眈々であり、ヒットラーが潮に乗つて、ドエライ踏ん張りを見せ

始めたのである。之がため、フランス人は、非常に神経質になつて來ました。段々この形勢が進展して行くに従つて、フランス國民は又も、いつまでも愚圖々々しては居られない。フランスも亦、現代文明の行詰りや、幾多の困難な國難問題を抱いてゐるのであります。どうくゞゾーメルグが、總理大臣になると、この自由のチャンピオンさへ、議會を二ヶ月閉ぢてしまつた。ところが、ゾーメルグがいくら偉くても一人で、そんなことは出来るものではない。國民が非常時意識に目醒めて來て、異議を唱へるものがなかつたからこそ、二ヶ月閉めたのである。誰も不平を云はない——非常時だから當り前だと思つてゐる。之を見ても、フランスが、それだけ惱んでゐるか、御想像に難くないと思ふ。

九、今は昔の大英帝國

さて英國を御覽なさい。英國に至つては、之は世界の四分の一を領土として、日出で日の没する時なしと、昔から誇り顔な英國であります。それが惱みは却々に深く、大きい。今やこの大英帝國が……あまり私の今日の立場上、大きな聲で言ふことは許されませんが、内密で云ふと……バラ／＼に解体してゐる。考へても御覽なさい、あなた方は、英國には國が幾つあるかを。固より大英帝國は一國でありませう。然るに、カナダから東京に公使が來てゐる、日本から又カナダに公使が行つて居

る。私は公使は一國を代表するものさ、大學時代に教へられた。カナダとは如何なる國であるか？ 國ではない、英國の領土の一部である。しかも大英帝國の大使さ全然別物になつて、東京に公使が來てゐる。たゞへば日本のとは別に、臺灣や朝鮮を代表した、公使が米國や、天津に居つたさしたらさうでせう、それと同じことです。

それだけではない、先日、私がジュネーヴの聯盟會議に參つた時に、先づ聯盟理事會で滿洲問題を議しました。其時、議長を勤めてくれたデ・ヴァレラ氏は何者であるか、彼はアイルランド政府の總理大臣である。アイルランドは何處であるか、之は領土さころではない、英國の本國である。わが國から見れば、本州に對する四國見たいなものであります。その四國から首席全權が出てゐるので、面白いこゝです。それでアイルランド全權は、先づ百の中九十九迄は、英國政府全權が宜しいと云へば、必ずノウ／＼と反對する、何でも彼でも反對する。四國から國際聯盟に別に出て來て。(笑聲)

そしてこれ以外に國際聯盟には、なほ英帝國から、英本國から首席全權、それからカナダ、オーストラリヤ、ニュージールランド、南阿、この四つの所謂自治領から、それ／＼獨立した、各代表してゐる首席全權が出てゐるのです。つまり英帝國からは、六人の首席全權が國際聯盟に出てゐる。タツター國から六人です。それなら、日本も一國から六人の全權を出したではないか、だが、この六人の全權

は分解作用を起して居ない、之はお互ひに慶賀すべきである。

これは大英帝國の政治から云へば惱みであります。仕方がない。英國人は自ら四つの自治領を稱して、ネーション云つてゐる……私は英語で「ネーション」とは、子供の時から、「國民」を教へられた。國民とは一つの國の民である。ところが、英國内では、四自治領の人民を指して、國民と呼んでゐる。四國民……四つの國があるが、英國自らさういつてゐる。私が大學時代に教へられた國際公法は通用しない。今の大學で、さういふ國際公法を教へてゐるか知らないが、私の時代のものは、嘘であつた。世の中が……時代が變つてしまつたのであります。

この一つを御覽になつても、そんな變化を來してゐるか、されほぎ非常時であるかど、判ると思ひます。

のみならず、英帝國人は、昔から世界の海を支配すると自慢してゐた。事實、世界の海を支配してゐるからこそ、世界に亘つてあれだけの飛びくになつた大帝國を保つてゐたのであります。この制海にこそ、かの海軍力が控へてゐるのだ。英帝國の領土をシツカリ繋ぐ金の鎖である。言葉を換へると、英帝國の基礎である。その制海權は、今や何處にあるのか！ それは昔の夢に化してしまつた。

ヨーロッパ大戰が終ると、米國が頭を伸ばし、世界第一の海軍を建設すると、駄々を捏ねた。それ

がワシントン、ロンドン會議になつたのであります。

日本人の中には、ワシントン、ロンドン會議は、なんでもかでも、日本いぢめだと思ふ人があるが日本も一つの問題ではあるが、主たるものは、英國と、米國の突ツ張り合だ。否、富限者米國がだん／＼軍艦を造り出したので、英國が青くなつて、さうか、こらへてくれといふので、十對十三比率を決め、この決めた結果が、又ワシントン會議で五對五……日本は三であります……と決められたのであります。私は軍艦だけで、海軍力が増大するものとは思つてゐない。人間にあると思ふが、ともかく軍艦を數並べて、何萬トンといふ勦定でやられたら、平時は困る。既に英國は米國一國だけでも十對十である。假りに世界に米國と英國しかないを假定しても、これでは、世界の制海權は半分だけであります。無論、海軍根據地や何やかやありますから、さう簡單にはゆきませんが、極く大擱みに云へば、さうである。日本は十對七は完全に取れる。そして米國は十六、英國は十四となつて、制海權はどうの昔の夢に化してしまつたのであります。之だけ御考へになつても、大英帝國がそれだけ惱んでゐるか、お判りになるでせう。

況んや英本國及び領土に於て、英國は、あなた方日本國民が想像出來ないドエライ國際問題を持つてゐる。之は今晚遺憾ながら、時間の制限がありますので、一々御説明申上げることは出來ませんが、

ドエライ問題があります。

その中で、私が申し上げたい一つは、英本國における農村が、タツタ全人口の一割しかないことです。之は今や英本國の非常な大きな悩みであります。我々にも幾多困難な問題が待つてゐますが、農村が五割を占めてゐる日本は、天佑であります。序でに申し上げますと、ムツソリーニ氏も偉い人には違ひない、偉いが、しかし、あの大革命が比較的首尾よく行つた一番の大きな原因は、何であるかと云ふと、イタリーは農村で七割の人口を占めてゐるさういふ事實であります。我國よりも、更に二割多く占めてゐます。之がイタリーの非常なる天佑であります。

農村問題は後に申し上げますが、英本國は工業本位であります。工業をドン／＼やつて、食糧は領土があるから、取れば宜しいでやつて来た。その領土が我儘を言ひ出して、分解作用を起して来た。そして、内を顧みれば、農村はタツタ一割しかないし、労働者は我儘勝手なことを言ふ。之には弱つた。これ一つでも、英帝國は大きな悩みを持つて、さうすることも出来ない現状にあるのであります。

一〇、ドン底の不景氣に喘ぐ米國

斯様に非常な悩みを持つ英國から、米國に渡る。米國はさうかさいふと、こゝには不思議のことが起

つて來るのであります。申上げるまでもなく、米國は世界一の富んだ國である。その富は、わが國の七倍もある。領土はわが國の十倍がある。また國民は比較的元氣旺盛であるべき筈の、所謂青年時代であるさういふ。その國民は一億二千五百萬人ある。しかも、現代文明の上の話ではあるが、この經濟的物質的現代文明の標準から云へば、米國民はわが國民より知識に於ても、能率に於ても大部上位に位する、その國民……天然資源は、わが國には、石炭こそ少しばかりあれ、それ以外には何も無い、殆ど無い、實にわが國ぐらゐる天然資源を、多量に缺いてゐる國はないのである。しかしタツタ一つの不思議がある——國は小さくても、天然資源はなくとも、不景氣でも、子供だけは馬鹿に殖える、それしかない。(笑聲)それに引きかへ、米國は、今云つただけの物を持つてゐる國である。そして、私は、之が現代文明の迷信の一つであるを、申したのであります。

ともかく、現代文明人は、金の前にはビヨ／＼する、光りに迷つてをります。米國は、その喧ましい金をば、世界の保有量の三割何分を持つてゐながら、まだ足らんさういふので、大量に買入れた。今では大方四割にもなるでせう。世界の金保有量の四割……あなた方も考へて御覽なさい、之で何の不足があるのか、不足どころではない、物が餘りあり過ぎる位である。私達日本人にそんなものがあつたら御覽なさい、ドエライ國になります。

ところが、その國がわが國と比較の出来ないほどの、不景氣のドン底に陥つて困つてゐるのです。世界の中でも、徹底した不景氣のドン底にあるのが、米國であります。世界で、今言つた物質要素を一番餘計に持つてゐる國は、これ又、米國であります。然るに、さういふ譯で貧乏であるのか？ あなたの方の中で、若しその日々を働いて、賃銀を貰つて、渡世してゐる小ツボケな家の隣りに、祖先傳來の大きな家を持つてゐる財産家があるとして、その隣りの財産家の一家の方が、お粥を啜つて貧乏暮らしをしてゐて、小ツボケの家が樂であつたとしたら、さう説明しますか？ そんなことが、この甲府にありませうか？ 銀行に百萬圓の預金があるが、お粥を啜る途がないといふやうな理屈がありませんか？ ところが、現に米國にあるのですから不思議です……日本に比較するに、太陽の向ふにある、ドエライ金持の國が、今や私がされほぎ説明しても、到底あなた方の想像出来ないほどの、火の消えたやうな有様で、不景氣のドン底に陥つてゐます。

先日、米國の新聞記者に向つて「諸君達はあり餘る金を持つて、俺の國よりも貧乏暮らしをしてゐるのは、一体、物の道理が違ふぢやないか」を申しますと「その通りで、何にも申譯ありません」を云つてゐた。あなたの方の中には、帝大卒業の方もあつてせうから、經濟原論で、之を説明して下さい。さうですか？ 説明がつかずまい。米國大統領以下が頭を絞つても、充分の説明はついてゐません。

大童になつて、不景氣退治をやつてをりますが、ドン底までは判つてゐません。それは無理からぬことです。人間さういふものは自分の事は、よく判らないものです。私は他人だから、米國を見ながら、世の中には不思議なことがあるものだと思ひました。若い時に學んだ經濟學では説明はつかない。そこで考へるに、私にはハッキリ判つた。まだ米國人には判らないらしいのですが……。

あり餘るだけ物質は持つて居る。しかも、物質的に豊富な、世界で一番お金持の國が、一番不景氣のドン底に陥つた、之は何が足りないからであらうか？ 之は、あなた方日本人達にも、この機會に申上げて置きませう。般鑑遠からず、いゝ見せしめでもありますから……。

米國の不景氣……それをさういふものか、缺けたものが一体何處にあるか云ふに、タツタ一つある。それは、魂が缺けてゐるのだ。物質を偏重した歐米人は、それに氣がつかない。夢にも現にも賃銀が餘計になつて、労働時間が短くなつて、なんでもかでも、物質的に得たいと思ふこと、それが、魂の飢ゑだ。われわれ人間は、獨りパンのみで生きらるべきものではないと信じてゐる。(拍手)

不思議なことだ——歐米人は耶蘇教を信仰する。耶蘇は二千年前、人はパンのみにて生きるものにあらずと言つた。それを信じてゐるのだらうが、サツバリ行はれてゐない。現代文明は物質に流れてゐる。あり餘る物質を抱いて、あれだけの不景氣のドン底に陥つてゐることは、大いに我々國民として

も、考へねばならぬことである。日本人も亦、魂を置き忘れたならば、米國の二の舞を演ずるより外に仕方がない。之はいふ手本として、御覽になる必要がある。詳しくは今晚は申上げられませんが、今申しただけの現状を以てしても、ドエライ事になる、非常時であります。現代文明の行詰りであります。なぜ米國が不景氣のドン底に陥つたか——米國は、現代文明の特長に一番深く徹底した國であるから、一番徹底して不景氣の糞を甜めてゐるのであります。

もう一つ、それだけの悩みに罹つてゐるか、証據を御覽に入れたいと思ひます。

一、米國全土に燃える非常時意識

新大統領ルーズヴェルト氏は、今や世界最大の獨裁官であります。世界に大きな獨裁官が二人——一人はイタリーのムツソリーニ氏、一人は大統領ルーズヴェルト氏、そしてムツソリーニ氏は自分の力で獨裁官にまで漕ぎ上げ、ルーズヴェルト氏は國民舉げての推戴で、民衆獨裁官になりました。その差はあるが、獨裁官たる實に於ては、毫も選ぶ所がありません。ルーズヴェルト大統領の有名な産業復興法といふの一讀するに、其中には、ムツソリーニ氏が十年かゝつて叩き上げた所の全体主義國家といふものゝ原則が取入れられてあります。米國のあの國情に、あの氣短な國民性に、その上、

四年に一度改選する大統領といふやうな制度を持つてゐる國に、ムツソリーニ氏が十年かゝつて、あのイタリーの國民性を形づくり、叩き上げた、その主義方針が、果してこの程度に實現されるか、之は非常な見物に相違ありません。が、それは兎も角、米國の政黨にも、日本の政黨人に似た所があつて、何とかしてこのルーズヴェルト氏を覆へさう狙つてゐる人は随分ある。しかし、もどく米國の政黨感情が物を言ひ出すに、全國民から酷い目に逢ふので、今やルーズヴェルト氏は獨裁官の實を現してゐる。

歐米は非常な事態になりつゝある。前の米國の大統領フーヴァー氏は、一時國民の人氣の絶頂に立つてゐた。にも拘らず、一昨年の大統領選挙に際しては、殆ど國民の九割から捨てられて、落選し、現在のルーズヴェルト氏が大統領になった。フーヴァー氏は俄に愚鈍になつたのか？ そんな事はない。私は如何にもお氣の毒に思つたから、この間片田舎に閑居してゐるフーヴァー氏を見舞ひ旁々訪問した。このフーヴァー氏が米國における所謂第一人者であるか、さうかは知らないが、非常な有能の政治家の一人ではある。それが、さうして國民から、あれほご憐れな見捨てられ方をしたものであらうか？

之は後になつて、理解し得た事であるが、昭和五年以後の非常時米國の不景氣はヒドイものであつ

た。苦境を脱すべく各地で試みる事一切が徒勞であつた。のみならず、手當すればする程、悪くなつた。これでは、いくらフーヴァー氏も、致し方がない。しかも、之はフーヴァー氏の施政が悪いからではないといふ事に、凡夫のあさましさで、國民は氣がつかない。遮二無二、フーヴァー氏を追ひ出して、新しい大統領に、白紙委任状を與へたのである。これを與へた事を考へてみると、如何にも一方意氣地なしも見えるけれども、私は少くも始めて全米國人が非常時意識をハツキリ擱んだといふことを知つた。……此儘いつたら沈んでしまふ、遠い先の事は判然しないが、われ／＼は知れる限りの方法で不景氣對策を建てるより途がない。果して彼れが、いゝか悪いかは別として、今の處、この人より外にないから、白紙委任状を與へたのだ……即ち、少くとも、米國人は非常時意識に判然と目醒めて來た。ルーズヴェルト氏の試みてゐる事が、わが日本でも出来るであらうか？ 恐らく日本では、ものゝ半分も難かしからう。この間、ルーズヴェルト氏が一年の施政を終つて後「一年を顧みて」といふ放送を全國民になした中に「農村問題に就ては、今まで爲した事が、いゝか悪いか、自分にもよく判らないが、ミにかく間違つてはゐなかつた」といふ言葉があつたが、諸君、さういふ言葉を大統領が言はなければならぬ程、米國の事態は非常である。かくて、米國々民は、大統領以下みな非常時意識に目醒めてをるのであります。彼等は少くとも眞劍であるといふ事を、私は今晚

あなた方に申し上げます。

一二、讀つて支那を見よ！

讀つて、東洋に、支那を御覽なさい。今日に始まつた事ではないが、餘程前から、大火事を起しつゝ、日本の戸口の前にある。支那は云つても、ヨーロッパ全体より大きい支那だ。人口にしてもヨーロッパ全体の三十何ヶ國を集めた人口よりも、もつこ多い。その支那が、戸口の前で、連年大火事を起してゐる。それでも日本は平氣な顔であります。日本の政治家の中に眞に之を憂へて、一生、之がため戦つてくれた人があるだらうか？ 歐米の政治家中には、このまゝ支那の火事を放任して置いたら、獨り極東だけではない、ミう／＼世界の大火事を捲き起すであらう——更に言葉を換へて云へば、第二の世界大戦争を捲き起すであらうといふので、非常に心配してゐる人が多數ある。

國際聯盟が、支那にチヨツカイを出すやうではあるが、これにしても一々悪い考へからのみやつてゐるのではない。苟くも國際聯盟が世界の平和機關である以上は、あの支那の火事を拱手して、見てのみゐる譯には行かない。鎮火しないと、世界の平和を、攪亂するやうなことが出来るやうな憂ひを、支那に感じてゐるのであります。

然るに、わが國は支那と同じ東洋民族であり、お隣りにお隣りの國である。即ち、自分の戸口の前に連年起る相當大きな火事の火の手が、世界變局に伴つて、ますます高くならうとするわが日本——現に共産軍があれだけ蔓つてゐる。蔣介石、その他の軍閥が掴み合ひをしてゐる。日本の政治家は、之を見て、内閣攻撃でもなす時にこそ、口實に、時々は……抑々支那問題とは……と仰有るに違ひないが一日用が濟んでしまふ迄、カラツと忘れて、平然としてゐる、その不眞面目さ！ ある意味から云へば、まことに大膽なる國民であります。しかし、この大膽は無知から來たところの大膽であります。かういうやうに、ロシアから始まつて、ヨーロッパの主なる國々を廻つて、米國を経て、再び極東に還り、支那を御覽なさい。

あつちでも、こつちでも、世界は非常時であります。人類史上未だ曾つて見ざる大變局は、世界を擧げて渦巻いてゐる。危局に臨んでゐる。私が申しますところが、餘り大袈裟であると思はれる方は、冷靜に、も一度世界の情勢を見て下さい。

一三、物質文明の剖判

イ、貞操觀念の低落

更に、現代文明を、もう少し分析して見ませう。之も詳しくは申されませんが、物質文明は日を逐ふて滔々と流れてゐる。現代文明人には、最早われ／＼の言ふところの、而して、實行してゐるところの「忠」「孝」共に、その本体は、理解し得ません。私は日本國民が西洋カブレして、大變悪くなつたことを、慨嘆してゐるものでありますが、それでも未だわれ／＼には、忠孝は判ります。それは、子供の時から小學校で、また祖父さんから培かはれた魂にシツカリ固着してゐる。然し乍ら、歐米に行つて、學者を捉へて、忠孝の説明を何遍繰返しても、我々の理解し、實行してゐる忠孝をば、彼等は理解することは出来ない。これはさういふ譯か？ 現代歐米人は個人主義に走つてゐるからである。個人主義は、も／＼抽象的である。之を人間が行つて、それ／＼具体的に引伸ばしてゐる。忠孝の判らない個人主義、その歐米人から見たならば、實にわが國は不思議の國であらう。忠孝を大切にすやうな國が、また世界にあるかいな……と、不審に思ふのが、つまり歐米人の心理である。

既に忠が判らず、孝が判らない現代歐米人は、今や「貞」といふ觀念をも失はうとしてゐる。これから先は、新聞に書かれると私が困るから……又さういふことを云ふと、日本の迷惑にならう……貞といふ觀念を日常の行動に最も代表的に表はしてゐるものは、女性の貞操觀念である。而して、今や歐米では、女の貞操觀念が殆ど地を拂はんとしつゝあるのであります。これ以上、かういふ席で詳しく申

上げる譯には行かないから、御想像にお委せする。

ローマは如何にして亡びたか——これは歴史が物語る通りに、男女の關係が亂れ、ローマ帝國は亡びたのであります。私から言ふならば、男女の關係が亂れた瞬間に滅亡状態になつた。その瞬間に、ローマ帝國は亡びたのであります。科學萬能論から云へば、人間は生きた動物であるから、本能の赴く儘に振舞ふのが人間だといふかも知れない。それなら、四ツン這ひになつてお歩きなさるがいよ。これは、私がさう思ふのではなくして、人類史が教へてゐる。

女性に貞操觀念が全くななくなつて、なほその民族、その國民が永く亡びずに居つた例は、われわれの人類史には見えない。なぜか、私から見れば、そんなことは當り前である。我々日本人からいへば、血統とか、肉体上の關係とかもあるが、女性の貞操には、それよりも、もつと深い意義が存する。女性は元來道德的動物に生れついてゐるもので、之に反して男は不道德的動物である。この道德的動物の女性が、人の女房になつてから、亭主の眼を掠めて、不道德のことをし乍ら、何にも知らないといふ顔をして、亭主を欺す精神状態になつて來る時に、我々人類は、社會において、何處に信を求めんのか？、タツタ一人の女房さへ、信用してよいのか、さうかの、大問題が起つて來る。信なくんば立たず、何れの國でも、何れの時代でも、信なくして立つたことを聞かないが、立つた民族もな

い。即ち、亡びるのである。今や、現代文明の精神的方面に、この精神状態をすら表はしてゐる行ひを見るのは、誠に情ない限りである。女性の貞操すらも、既に殆ど地を拂はんとしてゐる、斯様になりつゝあるところの現代文明であつてみると、人類五千年史を顧みる迄もなく、それは最早先の永いことではないといふことに、あなた方は氣がつかなければならぬではないか。

ロ、自由主義、個人主義の痛弊

更にこの現代人はさうなるか？ 自由主義とは……我儘勝手といふことである。私達の腦裡に母親から強く吹込まれてゐる觀念で、今なほ特にハッキリ残つてゐるものは、「義理」だといふことである。母親はよく義理を教へてくれた。一体、義務ぢや、權利ぢやと、餘計なことを、歐米から輸入したからこんな世の混亂を來すのだ。われわれの母親は義理は教へたが、權利に就ては教へなかつた。この權利に多少意味は違ふが、外國から權利を輸入して來て、さういふことにカブレた結果、西洋の如く權利をば主張するが、義務をば知らない者が多い現代になつた。眞の義務は少しもやらないで、權利のみを主張する、我儘勝手さ！ 親爺は一生懸命で、田畑を賣つてまで、子供を大學に通はせてゐるのにその子は何をしてゐるか。角帽を冠るはいゝとして、はては半分カブレて、西洋の生活を聞き嗜ぢり、つひには、赤に染まるのもある——我儘といふことである。もし親の子を愛する心、親の子に對する

苦勞を考へたら、そんな眞似は出来ない筈である。東京邊には、大學を出てから、何年経つても猶ほ親爺の脛を噛ちつてゐる若者すら澤山ある。噛ぢらせる親も悪いが、噛ぢる子供は、尙さら悪い。

日本人も追々さうなりつゝあるが、歐米人は我儘勝手な輩だから、子供が成年に達したらお別れで後は他人だ。母親が老いて、息子の厄介にならうとしても、扶養の義務はないと突き放したり、お母さんが下宿料でも拂はない限り、子供が置かないのが、欧米では普通である。仕方がないから、親を養老院に送る。それだから、欧米では、養老院がいつも一杯である。日本人の視察者の中には、その立派な建物を見て、日本には小さなものしかないといつて、こぼすのがあつたが、私は、小さいことを誇りこしてゐる。歐米人が「ホーそれは不思議だ。してみると、日本には老人はゐらないのか？」「それは大ありだ」「どう始末するのか？ お前達は何處かへ捨ててもするのか？」「俺の國には、昔、信州に姥捨山といふのがあつた。これは昔噺ではあらうが、母親を捨てたり、親父を捨てたりする事は日本にはない。親が貧乏すれば、親類がさうにかするし、親類がなくなつたら、他の者がさうにかする。赤の他人がさうにかする。子供が七人居ると思へばよいから、一人位よこせと言つて、而も無産階級の人すらやる」を聞かせてやると、歐米人は「ナンと物好きな國民であらう」と驚く。それで私は大きな事をいふのではないが、彼等は、そんな事を容易に信じない。即ち、われ／＼と彼等の間に

は、それほど大きな距離がある。個人主義の爲である。自分の都合さへよければ、萬事宜しいで、中には結婚をさへ避けるものがある。夫婦一体とは云つても、果して歐米に本當に一体になつてゐる夫婦が幾組あるであらうか？ この頃の傾向を御覧になるが、いゝ歐米にては思慮分別ある男性は妻を保持とうとしない。之迄になつて来た、個人主義である。この所謂個人主義に走り、自由主義に溺れ、ぞしてドウなつたか云へば、一口に不純觀念の徹底化だ。私は資本主義といふものは、悉く悪いとは思はない。その過去に於ては貴重な貢獻を數へることが出来る。しかし、悪い事も随分ある。その中で一番悪い事は、この人間さういふものが、不純觀念に徹底して、年から年中たゞ儲けることにのみ離脱する以外、何も顧みないといふことだ。これこそ資本主義の一罪惡である。資本主義が一番徹底した米國はあの通りになつてゐる。これが皆不純觀念を伴つてゐる。

一四、農村は國家の原動力

農村は何處の國に於ても、最も保守的であるが、米國の農村人は、もうさうでない。そして彼等の有名な農事休暇、農事打止めには、大統領でさへも青くなつた。農民にストライキをやられたら、工場に従事してゐる者も、都に住んでゐる者も、皆飢ゑざるを得ない。わが國にしても、若し五割の人口を占めてゐる農村人が「米を作るのは引合はない。俺達は詰まらないから米作を止めよう。だが、

俺達の喰ひ米だけはとつて置かう。魚類も時々食べたいから、漁村には米を送つて、魚を貰ふが、その他は一切關知するところでない……」と、かうなつたら、一体日本はさうなるのか。私は農村人を煽動しようとは思はしない、がわが農村人が、さうなつたら、わが國は亡びる。茲に私は此点に就いて私の感じてゐる事を諸君に御参考に述べよう。

これは山梨縣が農村であるから云ふ譯ではない。私はあなた方に諂ふやうに思はれる事は嫌ひである。私は京都始め大都市でも、之を述べる。あなた方農村人には、たゞ簡単に述べる。日本は、一体これまで偉い國になつたのは、誰のお蔭か云ふと、農村のお蔭であるといつても、文句はない。今云つたやうに、農村人は一体何處の國でも保守的である。その中でも、わが國の農村人には、私が高唱してゐる日本精神が一番多量に、なほ残つてゐる。(拍手) この日本精神の中で、多大の犠牲的精神が、わが農村人が一番多量に残つてゐる。そして、この農村人は、わが人口の五割八分を占めてゐる。陸海軍を御覽なさい。一体、これだけの陸海軍を維持するのは誰であらうか、その六割は農村の子弟が之に當つてゐる。この陸海軍を維持する本當の力は、農村人の、この黙つて、物に堪へる傳統その力ばかりだ。同時に、働く事が人間の勤めだし、傳統的に意識すると、せざるに拘らず、この傳統に尙生きてゐる——之が農村の眞の力であります。私は此の間、關東方面の或る農村の人が、明治元

年以來の統計を調べて、私の處に参考に持つて來られたが、その統計によると、明治元年に比して、實に八十倍の負擔を農村は現に課せられてゐる。而して、農産物は十倍になつてゐる物は、殆どなく或物は同じ位、二、三倍位、四、五倍位にしか騰つてゐない。私は諸君に驚くべき事をお話する。私は此事をば、もう東京では、數ヶ所で云つてゐる。わが國の政治家、實業家の諸君の中には、自分の國の事實を御存じない方が多い。私は昨年の春から引込んでゐた當時、私は、一生懸命數字を集めて、自ら獨自的に考へて來たのである。私の調べた數字の中には、驚くべき事が現れてゐる。わが外國輸出貿易、之は一体誰がやつてゐるのか——今日の實業家連中の資本主義的機構の下に、貿易をやつてゐるやうに、誰も思ふが、それは誤りである。日本では資本主義といふが、無産黨の方は、みな資本主義を攻撃する。私に言はしたならば、資本主義は攻撃する價值がないほご、フランクの幼稚なものである。然し、疑問を抱くならば、わが外國輸出貿易を見ても、わが國の資本主義機構は、僅に驚く勿れ、一割七分しか貢献してゐない。その余の八割三分は、誰がしてゐるかど、調べて見ると、農村、そして家庭工業、中小工業である……これは偽瞞でも何でもない、事實の數字が示してゐる。日本の政府で發表したり、又は大きな會社で發表したりする統計といふものが悪い。よく分析して見て、前述のやうな驚くべき事實を、私は昨年暮に漸く表にし得たのである。未だ日本人で、

他に之を發表してゐる人はない。八割三分といふものを、實に農村人が貢献し、それに今の家庭工業中小工業が續いてゐる。然らば此の貢献多いこの農村と家庭工業、中小工業に、何か援助が與へられてゐるか？ いや、全く何もないではないか。(拍手) 早い話が、中小工業に對する研究に關してすらも、殆ど何の便宜も與へられてゐないではないか。況んや、農村と家庭工業に對してをやである。外國貿易に貢献してゐない資本主義に對してゐるだけの保護をすら欲してゐる。しかし乍ら、私は必ずしも之を故意とは思はない。彼等の無知より來た數字だと思ふ。かやうに見るに、實に、わが國を世界三大國の一にまで漕ぎつけさせて呉れた、一番の原動力は、農漁山村であります。

これに反して、若しあなた方農村の人が、私が言ふ犠牲的精神、日本精神を捨てた曉には、わが國家は亡びる。故に、私は諸君に、さうか今少し御辛抱願ひたい。決して煽動するのではない。あなた方が短氣を起して、一つ米國農村の模倣をやらうかなと申された日には、これは事である。この國はあなた方の國で、他人の國ではない。日本は農村の國でないといふ譯にはゆかない。飽く迄、國家に貢献して來てゐるが、なほ協調して頂かなければならない。(拍手) 私が今少しの御辛抱を願ひたい所以である。もう大概にして農村人に報い、所謂農村人を優遇すべきである。何時まで農村救濟の聲のみを聞いてゐることか。事實、農村救濟問題を議すこと二十年、二十年前生れた子供は、もう高等學校に

入つてゐる。農村救濟といふ話ばかり聞かされて、中味は何もないのである。つまり、かういふ人々は、本當にわが國の農村が、されほご國家に盡してゐるのか、昔から農は國の本なりといふが、今も猶然るのかを知らないのだ。本當に彼等が發心して、眞に農村の情況調査に彼等が徹底してゐるならば、ドウであらう……實は、私は二十年ではなく、農村の人々二週間無駄話をして之を知り得てゐる。農村人だから云つて、此の儘に放つておく事は、大なる不道德である。それに子弟多き日本の農村人に、一寸もう少し辛抱してくれといふのは無理であらう。

一五、先づ救濟の雰圍氣を作れ

さて、私は農村救濟に突進しなければならぬといふ意見を持つ者である。しかも農村人に對して暫くの辛抱をお願ひする所以の一は、農村人にも責任がある。それは、こんな日本の現狀では、こんな人が朝に起つてしましても、思ひ切つた救濟策は皆無で、出來るものではない。出來るやうな雰圍氣を、あなた方がつくる責任がある。世界變局を眺めるに、そしてムツソリーニ氏にしろ、ヒットラー氏にしろ、ルーズヴェルト氏にした所が、その國の雰圍氣がハッキリ目醒めて居なかつたなら、一人で獨裁政治なきは出來るものではない。我國の國難中の一番の國難は、けだし我國の世界變局及び我國内事情か

ら來た所の國難に、全國民を擧げてハッキリ目醒めて居ないといふことであります。

日本には、一体何があるか？ 大正維新を叫ぶこと茲に二十三年、只口で叫びはしたが、何處を向いても、維新らしいものはない。何れを見ても、たゞ不徹底である。その今日の日本にタツタ一つ徹底したものは云へば、それは「不徹底」(笑聲)(拍手)といふ言葉であります。醒めてゐない、ハッキリしてゐないのであります。

一六、我國內の特種事情

更に私が世界變局の視察から、わが國に立還つて知つた、先程述べた、わが國特有の事情から生じた國難、所謂非常時の問題、之れについては時間が大變過ぎましたので、極めて簡単にしか申し上げられませんが、簡單ながら私の見るところを申し上げますと、かういふことになります。

いろ／＼國內の事情はある。この中で一番目立つて、大きなものは……非常時招來の原因の一つは……僅か六十年間に、人口が激増したことで、日本の人口は六十年間に一躍して三倍になつたのであります。左様な人口の殖え方は、あまり例がないのでありまして、之に加へて、生活の變遷に伴ひ、我々の日常生活に必要な物資が、少くとも中流以上の人達には、御維新當時の日本人に比して、何倍

といふ殖え方をしたのであります。

さうするに、我々の生活に必要な物質の見地から之を云へば、大和民族について見ても、一躍して四倍六倍になつたことと同じことであります。六十年間に之だけ殖えては、大きい問題が起らないでは居りません。家について考へましても、子供が十人出來て、十人に一人づつ財産を分けて、家を持たせると、小さい天然資源を持つた日本は、窮するばかりであります。之が嫁を取つて、また子供が殖える。

ところが第二にさういふことが起つて來たかといふと、僅か六十年間に、歐米が殆ど何處にあるかさへ知らなかつたやうな、アジヤの絶海の一小島國、日本が、世界三大國の一になつた。こんな發展振りといふものは、我々の知つてゐる人類史には類例がないのであります。歐米人も之には驚いてゐる。之はお互ひが誇りとし、且つ慶すべきことではあります。同時に、我々は、この國が偉くなつたことに伴つて、大きな負擔が課せられました。

先程言つた農村の統計だけでも、私は未だ突止めてゐないと、斷つて置きましたが、明治元年の負擔と、今日のそれを比べると、八倍になつたといふ數字が出て來るほゞ、エライ負擔になつてをります。たとへば之だけの陸海軍が御維新前に何處にあつたか？ 私達の教育費について御維新時代に

何處に悩みがあつたか？ 寺子屋教育費に悩まされたか？ 今でも寺小屋がいよが、それが出来ない
 あれだけの教育費を取立てながら、明治以來の教育を受けて、進歩した教育を修めたものに偉人が一
 人も出てゐない。不思議なる教育をやつてゐる。(拍手) あれは一に外國模倣である。御維新前後には
 漢文講義だけで傑人が現れた。みんな寺小屋から出たのである。果して然らば、教育の目的が主とし
 て人を作るにある以上、寺子屋の教育の方が目的を達したといふこともならう。私の先輩の吉田先
 生の如き、捕はれの身となつて、牢死されましたが、あの松下村塾で經世の弟子の間に於て、漢籍を
 机に叩きながら、講義すること僅か二年半……それが居乍ら、維新の際に、あれだけの傑人を輩出せ
 しめた。ナンと安上りではありませんか。(笑聲)

なぜ之だけの差が起つて來たか？ 私は一体今日の教育に、之だけの驚くべき差があることに、誰
 も氣のつかないことが不思議でならない。氣づくべきであります。自ら顧みて、互ひに、何處かに間
 違ひがあるのでありますまいか——時代だといつてしまへば、それまでだが、あまり不思議なこと
 である。

そこで考へて見ると、之は又それが當然の話でもある。若し明治以來の外國模倣教育で、偉人英傑
 が出たならば、これこそ不可思議千萬であることに、私は氣づいた。御維新前後のわが國の教育家は
 先づ自らが憂國の志士であつた。そして青年の頭を叩いたのではなかつたか。自己のこの憂國の至誠
 を基として、自分の魂を青年の魂に打つつける——それだからこそ、傑人が出た。今の教育はなんであ
 らう？ 外國の直譯をして、生徒に切賣りする餘裕はあつても、魂を磨く暇はない……(拍手) かく
 の如くして、本當の人間が出来るならば、洵にお手輕で宜しいが、古今東西、斯様な教育では、未だ
 曾つて偉人の生れた例を聞かない。(拍手)

それは別として教育費は拂はされる、それ道路費、社會施設費と、國民の負擔はいよ／＼重壓を加
 へられる。そして一躍二十倍、三十倍、四十倍になつた時に、かくの如き農村問題が起らず、かくの
 如くして、政治、經濟社會に何の影響も起らないといふやうなことは、あり得ないことである。

漠然と想像しても、かゝる難問題の起つてゐることは、私は、むしろ當り前であると思ふ。たゞ之
 にお氣がつかない政治家や學者は、洵に呑氣であるといふより外はない。今や、この難問題は眼前に
 横はつてゐる。その解決に迫られてゐるのであります。我々は噴火口に進んでゐるのである。更に
 廣く考へて、六十年間、かくの如く發展したこの國に於て、お互ひ顧みて、幾多の缺陷を見出し、之
 を正しく樹て直すことを、ハッキリ悟らねばならない。

見様によつては、二回も、三回も、國の大きな掃除をしなければいけないと思はれる。家にしても、

一年も掃除をしないミ、塵で埃だらけになるやうに、この國にも、積弊が山の如く溜つてゐる。つまり塵を拂つたところがないのである。之を一掃する時期は、もう夙に來てゐる。かくして、大正元年から大正維新を斷行すべしとの聲が聞えて來た。しかし、たゞ聲だけでは十五年過ぎても、百年経つても、何にもならない。昭和になつた。昭和維新はいよく急なりといつてゐる。そして九年目になつた。こつちを向いても、維新らしいものは見當らないのであります。徒らに筆や口でのみ維新を叫ぶ、その體たらくが、わが國一番の國難だ。(拍手) 國內問題に見ても、疑義を拂はずしては、何人が維新を急なり云つても、それは意義をなすまい。

一七、歐米人の大和民族觀

而して今度は外交方面を見る……我が國の外交國難は夙に來てゐる。先程から述べたやうに、大体世界の變局から半ば實情が察せられる歐米は、今や文明の行詰りを呈して、人間の氣が少し狂つて來てゐる。いや、餘程狂つて來てゐる、何を仕出かさなうとも限らない。この物質偏重の歐米人には、到底、大和民族の心境を諒解するに至る時期は來ない。そこに日本と歐米の諒解のつかない根本がある。根本に大變な喰ひ違ひがある。

そこへ持つて來て、もう一つ困つたをには、大和民族は餘り有能である。それだから、外交國難は日を追つて深刻となるのだ。歐米人は始め日清、日露の役を見て「日本人は戦争には強い國民だ。さうも奥の判らない民族だ。小さな人間で、餘り風采も振はず、一人々々の力は決して強い事はないし、鍛えられたコサツク兵一人は、恐らく日本人三人にも向ひもしように、この奴が、一朝戦争ミなるミ、數が少い上に武器が悪くても、強いといふのは判らない話だ」と、顔を見合はしてゐたものだ。が、私は、歐米人のやうな物質文明に浸つてゐる人間には、日本人の奥の判らないのが當然だと思ふ可笑しいが判らない、確かに判らない、……私が「僕の國では農村の子弟……農家の子弟といふと尊い、召集を受けて戦場に向ふと、生還を期するものは一人もない」ミ話すミ「一体、そんな人間ミいふものがあるのか」ミいふ具合である。そこで日本精神ミいふものは、かういふものだが、現代の歐米人に説明しても、結局、彼等には、その奥は判らない。そんな精神を持つてゐるミいふ事が、さうしても合點が行かないのである。それが判らない以上、日本人は何故強いかといふ事も判る道理がない。空閑少佐が人事不省で捕虜になつて、歸つて來て、自及するといふ、こんな精神は到底歐米人には判らないのである。それが判らない以上は、日本人が何故強いかも判らないし、結局、正体の判らないもの程、恐ろしいものはないといふ事にならう。

一八、我が外交上の危機

何十年も外國にゐながら「聯盟を脱退したから、國際關係が悪化した」云、馬鹿な事をいつた人があつたのに、私は驚かされた。そんな事のある筈がない。それが聯盟を脱退するに、わが外交は、日を追つて段々死地に突き落されて來た。これが一つの道行になつて、早い話が、英國人は日本が聯盟に残つてくれたならば、日本商品をモ少し余計買つてやらう云つて來た……そんな優しい連中ではない筈であるが。

この間の事は、私が余り言はない方がよい。私はさう思ふ。そして、私はあなた方にこの際ハツキリと言つて置く——外交工作といふものは、固よりやらなければならぬ、それをやらなければ、年に三千萬圓の經費を要する外務省の不要論も起るわけであらう。

しかし、世間では、外交云ふと、何か利目のある、手練手管のあるかのやうに思ひ過してゐる外交は内政の延長であり、わが國の正体の反映に過ぎない。

外交戦といふものは、現代においては大部分が何であるかといふと、經濟戰である。而してこの經濟戰が火花を散らせば、散らすほど、外交は眞剣に、辛辣にならざるを得ない。それはその筈である。

何處の國が道樂に貿易をしようぞ！ わが國にて、慰みに、貿易をしてをりはしまい。自分が生活する足しにするためにやつてゐるだけだ。即ち、我々は生存權を確保するためにやつてゐるのではないか！ それと共に、歐米人にて、道樂で貿易をやつてゐるやしない。同じく彼等の生存權確保のためにやつてゐるのだ。

これからの外交戰は、愈々眞剣に、愈々險惡になる事を、あなた方國民は、覺悟しなければならぬ。にも拘らず、矢張り危機はないといふのか？ 三十六年の何處に不安があると問はふとするのか？ そんな馬鹿なことを言つてはゐられない。

世界を平和にしたい、協調したいといふことは、固より願ふところである。しかし乍ら、國民に、國家の前途に何物もないかの如く思ひ込ませ、外交工作を以て無事に切抜けられるといふ印象を與ふることは、即ち自らを欺くことであると共に、わが國の前途を危ふくするものである。我々は、如何にイヤな事でも、之を處理するだけの勇氣を持たなければならぬ。

各國の卑近な問題に觸れて、これを論ずるに、先づ來年から海軍々縮會議が始まる。諸君は如何なる覺悟と、如何なる熱心さを持つてこの會議に臨もうとするか。支那問題はさうなる？ 過去に於て千變萬化した、支那問題は、今後ますますコンガラがつて來ることであらう。

私は、危機といふ言葉を以て、直ちに戦争が起ることを意味させようとはしない。戦争も起るかも知れないが、私の言ふ危機は、外交上の危機であります。しかし乍ら、外交は決裂するのみが能ではない。ジュネーヴで決裂して、外交に成功した——そんな馬鹿なことがあつてはならない。では一体、あれはドウいふことであるか云へば、世界大戦後、わが國民は、微力ながら、少くも指導階級の主たる指導者たるべきであつたが、さうしても悟らない間に、英國に捨てられ、日英同盟の解消となり、楫を取られた日本丸は、その後、楫なくして、荒海を波の間にくゞフラくゞ漂ふてゐたに過ぎなかつた。それが遂にジュネーヴに於て、あの暗礁に乗上げてしまつた。しかし、今度は非常に合せだつた。そして、私は、國民から壽府會議に就て何かを認めるやうに強いて求められるならば、そこにタツタ一つの喜びがある。幸ひ、日本丸引揚のお手傳ひをなし得たこと、之である。

私は日本に歸つたならば、無論過去の無方針、即ち、楫なくして漂ふ危険にある船、日本丸に對して、朝野を擧げて、大急ぎで、日本丸の楫、即ち外交方針を作られるであらう姿が見られることと思つて歸つて來たのである。しかし、既に今日一年もなつても、楫は依然出來てゐない。一外務大臣、一總理大臣、一松岡が、外交方針を密かに待つてゐたところで、そんなものは、今の世の中には通用しない。一國の外交方針は、全國民的に意識され、舉國的に支持されなければ、役には立たない。一人

や二人で、外交は出來ないのであります。一人や二人で出來る外交——そんなものが何處かにあるならば、教へて下さい。私の知つてゐる限りに於ては、全く無いのであります。

國民は今日なほ日本丸の楫を作らうとしてゐない。日本丸は依然國際の荒海にヒラくゞと漂つてゐる。この次に、乗上げる危険性のある暗礁は、ジュネーヴの暗礁より、何倍か大きい暗礁であること、私は斷つて置く。

しかし、我々の外交で、若しわが國の利益を完全に擁護し、そして圓滿に他國と事を納め得るならば、之は、やらなければならぬ。それが外交だ。それが出來なければ外交は要らない。軍人でもやつてくれる。

一九、危いかな人心の弛緩

私は來年の會議は、さうか決裂しないやうに祈つてゐる。決して松岡洋右は、只強がりやを云ふのではない。讓歩すべきは讓歩すべし、たゞ我國の存立を危ふくする事は、斷じて讓つてはならない。米國も、英國も、わが日本に全然平等の上で、親交を結ばなければならぬ。先年議會で私は言明した——これからの戦争は、日露戦争の如くに、廿億位の問題ではない、桁が一つ違ふ——二百、三百……

氣輕にやる譯にはゆかない。而して、我々も、やらなければならぬ國とは衝突しても、やらなければならぬ、この決心がなければならぬ。しかし、來年からの會議……これを中心として、千變萬化の事情を呈して來よう。この外交、之を切抜けなければならぬ。これを切抜ける爲めには、如何にすべきか？今の日本の體たらくでやれるといふのか？日本は、もうソロ／＼少康に馴れて來てゐる。經濟戰以外には別に何事も大した事が起らないといふ、少康に馴れて、日本は緊張を缺いて來てをります。この國民の外交工作に、何か手練手管でもあるかのやうに思つて、泰平無事を期しつゝある日本國民……これで、ドウして來年からの、外交の荒海を乗切らうとするのか？これが、私の三田尻に退いて考へた重點である。

しかも先程から繰返した如く、外交方面よりも、もつと急なるものは、わが形を直すこと、これを正しくすること、言葉を換へて言へば、今やわが國は昭和維新を斷行する時に迫られてゐるのだ。しかも國民を擧げて、只口だけで言つて、一向に敢行しさうもない。私は、わが國歴史あつて以來の出來事が、この二、三年間に差迫つてゐることを、内に外に横はつてゐることを、獨り恐れる。これを大きな國難と言はずして何ぞ！その事さへ國民は悟つてくれない。

しかも口には國難、非常時々々を口にして、八十老翁が三人起つて、現内閣の首脳部をなしてゐる。

政黨は無力で何事も出來ない。私は老人の惡口を云ふのではない。惡口どころか、この老人達に對して、非常にお氣の毒に思ふ。明日にでもお辭めになりたいと思つてゐるのであらうのに、誰も代つて出る者もないし、御自身達も「われ／＼が辭めたら、後を繼ぐものがない」とお考へであらうが、既に之は老人の冷水でもある。しかし、老人は、遺憾ながら、昔から冷水のものである。それにしても八十を越えた、或は八十に近い老翁が、言々悲痛なる演説を述べてゐる努力に對しては、國民として感謝せざるを得ないことは云ふ迄もない。しかし、あなた方に、よくお聞きしたいのは、わが日本に於ても、外國に於ても、昔から、革命とか、維新とかを、八十の老翁が三人も先に起つて、やつてのけた歴史があるかといふことである。あるならば、是非お示しを願ひたい。

かく云ふも、決して老人を攻撃するのではない。現に御覽になるやうな惡材料が、わが日本に、その前途に重つてゐるのに、誰も目醒めてゐないところか、少康顔のこの雰圍氣、この状態こそ、一番の國難である。さうか之に氣付いて頂きたい。

二〇、昭和維新斷行の秋

日本の社會に就いて一言申上げたい——一体何が非常時なのか？現代のわが日本の社會は六十年

間デツミ小さく、かしこまつて来た。何處も彼處も、地盤には大きな岩が横はつてゐる。その中でも非常に大きな岩のところへ、青年といふ筈が段々伸びて、地殻を破つて頭をあげやうとしたが、コツンと突き當るだけで、伸びる道が一ツもない。更に切言すれば、今の日本の政黨なり、社會なりは、若い人間達が、その元氣を眞に國家のために振ふべきチャンスと與へようとしなさい。もつと悪く言ふと、チャンスはあるが、それをば悪黨には與へて、純眞にも、眞に國を憂へて、國家のために立上る者の前には、頭の上には、岩を置いてゐるのだ。だから、この國の維新は、この岩を除かずしては、期待されない。年寄はシツカリ岩の上に晝寝をし乍ら、天下泰平の夢を見て居る。傑人出でざれば、この國は亡びる。

明治維新に參畫したのは、何れも青年達であつた。中には、西洋かぶれのした悪青年もあつたが、當時の純眞なる青年達は、御維新の偉業に參畫して、今日の日本の基礎を礎いてくれた。今日の青年達も、あの青年達に比して、決して遜色はないと私は思ふ。それを信ずればこそ、かうして、全國を行脚して歩いてゐるのであります。

私が國に歸るに、九十二才の母が待つてゐる。若し今日の青年に、維新の偉業を決行するに足る意氣がないならば、私は國に歸つて、釣りでもして居ります。これから次々に同志と起つて、この國を

救はなければならぬと、私は思つた。岩の上に居眠りをする時、大概この國は亡びて了ひます。私はさう思つた——わが大和民族は世界人類に何等かの貢獻をなし得ないのか、なし得ないならば、亡びてしまふ。そんなケチ臭い民族ならば、わが大和民族は建國の始めから、神武天皇御詔勅の中に「都ヲ開キ八紘ノ上ヘ云々」とはない筈である。又、近くは長くも昨年三月二十七日國際聯盟脱退通告に際して御煥發あらせられた御詔勅を拜しても、我々が建國の始めから、これだけの大意志を持つて来たことは明かであります。大和民族は、かくて八十年前、門戸を開いて、世界と交通を始め、更に六十年間に驚くべき發展をなし、今なほ世界が恐怖するまでの勢ひを持つて、向上發展を續けて来た。これは決して無意義ではない、偶然ではない。天が大和民族に、まさに亡びんとする現代文明と全人類を救ふべきを命じてゐるのであります。かやうに考へる時、私は、所謂昭和維新を行ふことは、獨りわが日本のために、急であるばかりでなく、この維新を行ひ得るや否やに、世界人類の將來が、緊つてゐると考へる。

今後の青年諸君が、さういふ様にお考へになれば、如何に責任の重きかを自覺されねばならぬ。青年の元氣、青年の血と熱で之をやり遂げることが出来る。之が私の全國を行脚して訴へるどころであります。言葉を換へていへば、私は青年諸君の頭に、兎や角訴へやうとして居ない、青年諸君の魂

に訴へやうとしてゐるのである。魂が目醒めないか、目醒めるか——政黨解消論は、一つの工夫であり、目的ではない、しかし、昭和維新に突入するに、これ以上の捷徑があるならば、さうか諸君、教へて下さい。さうすれば、私は明日にでも政黨解消論を棄てます。

私の考へたところでは、言葉が足りないかも知れませんが、政黨解消をスローガンとするより外に、昭和維新に突入する途なしといふ結論に達したからやつた、之は即ち一つの工夫である。今日の青年が墮落してゐることは、一部のものに見受けられる。しかし、私の考へでは、今はさうあらうと、決意次第で、わが大和民族の本然性に立還ることが出来ると思ふ。この二千六百年史を起点として、神ながらの道によつて、茲に皇道を確立することが、必ず出来る。

果して然らば西洋人の眞似をして、なんでもかでも、カミカミを打合はして、暴動をやる、クーデターを行ふといふことなく、血を流さずして維新を招來出来る、この革命を行ふことが、わが大和民族には可能である。それをやりたい、それをやつて、歐米人に見せること、それ自体が、彼等の亡び行かんとするところを救ふ第一歩である。血を流す革命は、世界人類のために、甚だ悲しむべきことである。しかし、悲しむべきことでも、それしか途がないといふのならば、私もやらざるを得ない。だが、さういふ事はしない、そして、したくない。外交國難である此際、紛亂は起したくはない。本然

性に立還り、相和してやれる、私の求むるものは「和」でこそあるのだ。決して鬭争ではありません。

二二、政黨解消論の根據

私の求めてゐる政黨解消も、何も喧嘩腰ではないのであります。政黨を解消したら、議會はさうしたら宜しいか？ 憲法違反ではないかとの論に至つては、あまりに愚で、説明することすら馬鹿々々しい。憲法的一篇を繕いて見ても、そんなことは書いてない。憲政常道論は美濃部達吉博士が作ったもので、あれは國民を胡魔化したものである。そんな事は憲法にはない。

この通り行詰つて來た、しからば、我々は他に工夫する外に途はない。この政黨を解消しても、決して議會は御心配ない。

又政黨の非についても述べたいが、時間がないので、これは賢明なる諸君にお委せする。尤もその點に就いて、お知りになりたければ、私の演説はパンフレットになつて、幾つも出てゐるので、お讀み下さるやう希望する。

私見を以てするに、政黨政治か、議會政治かといふやうなものは……議會をば否認してはゐないが……一黨、いな、嚴格に言へば、天皇政治より外にないのである。議會政治、政黨政治、そんなものはない。國務大臣は天皇を輔弼すべしとあり、議會は天皇の御名により、政治に翼賛し奉るのであ

ります。それでは満足出来ぬといふ人は、英國か、何處かにお出掛けなさい。英國に行つても、米國に行つても、もう政黨政治はない。世界の形勢を見ても、政黨政治に嗜ぢりついてやつてゐる國が何處にあるか？ あるなら、之またお見せを願ひたい。政黨解消論を時代錯誤と言ふ人があるが、その人の言ふ時代錯誤とは何世紀か前のことである。政黨政治は殆どなくなつてしまつた。畢竟するに、政黨政治は何であるかといふと、我國の政治ではなく、政黨は何であるかといふと、外國から借りて來た借着であり、祖先傳來のものではない。事實、わが日本は政黨なしに二千五百年間、國を治めて來た。西洋人から借りて來た政黨政治は、もう泥だらけになつて、心ある人をして擧げせしめてゐる。それに可笑しい事には、借りて着た頃には、本家の歐米では、さうに、それを脱いでゐるこゝだ。それにも拘らず、未だ之が戀しくて脱げないのが、わが國である。(拍手)

又政黨人は泥棒詐欺をやる。しかし、私は、そんな事は問題にして居ない。私は四年間政黨にゐたが、泥棒詐欺を働いた事はない。しかし、政黨にも正しい人、私以上に立派な人もゐる。政黨であるといつても、皆泥棒でないと同時に、政黨以外にも、泥棒や詐欺師は一杯ゐる。だが、正直にいふと政黨内の方が、外に比して、率はズツと高い。尤も、これは格別、不思議はない。第一には、政黨の虎の威を藉りて、始めから悪いことをしやうと思ふ……殊に地方に多いが……ならず者が入つてゐる

からである。だから、之を以て、政黨全体を咎めるのは少し酷い。さういふ者は、政黨がなくても、何か悪いことをするに相違ありません。のみならず、相當道徳堅固な人でも、政黨といふやうな、わが國民性に合はない制度の中に居るに、餘程要慎せぬと、つひチョツトやり、遂には悪いことをするやうになるものである。

更に今の政戦とはなんぞ？ 現在の既成政黨の政戦とはなんぞ？ 政戦とは戦である。戦には彈藥を飛ばせる。その彈藥は何か？ 金だ。あなた方は陸海軍の軍人を戰場に送り乍ら、彈丸をやらないで、しかも、勝つて來いといふのでは、理屈が合はないではないか。彈藥は金だ。それを附けて來たから、さうもチョツトそこは人間になる。あなたが内閣を取つたら、經費を下さいと要求する。それで取つたからと云つても、あなた方は「貴様は泥棒だ」といふのは、少し酷だ。私は、あゝいふことをして引ツ掛ける人をば、特に悪人とは思つてゐない。もし私が明日でも政友會總裁を引受けるとするに、私は、之からこんなことは爲すまいと思ふが、そうすれば、この彈藥が盡きてしまふことは明らかだし、この彈藥が盡きて來たら、私とても、チョツトやりかねません……たゞへば……苟くも戰場に臨んだ以上、勝つて見せるといふのが、日本人だ。だから又戦争でも強い。かういふ風に考へてくると政黨人が悪いことをするのは、勿論悪いが、特にあの人々を、政黨外の人よりも特別生れつき悪性だ

と見ることは、無理である。寧ろ、ある場合は、洵に同情に堪へない。國民から泥棒呼ばりをされたのでは引合つた話ではない。私はかう思ふ——孔子は三千年前「人心これ危ふし、童心これ微かなり」と云はれた。童心は、まこと、微かなものである。それであるから、この心は危ふい。又、童心の微かである人間は悪いことをせぬやうに、良いことを楽しむやうな制度の下に、環境に移すといふことを、聖人も申された。これを今の政黨は、物を作つて、西洋人の眞似をし、可なり良い人々もしまひには、だん／＼悪に踏込んで行くやうに出来てゐる。それで私は、之は直ぐにも廢めるべきものであると思つてゐる。私はかくの如き根本論こそ持つてはをれ、今日、この根本論を提げて、國民に訴へやうとしてゐるのではない。それは五年後に、私がまだ生きてゐたら、ユツクリ國民に訴へたい。

二二、あゝ向ふ五ヶ年

向ふ五年……私の見るところでは、三十五年を中心、その前後……これをなんとか無事に通りたと思つてゐる。その前に維新を決行しなければならない。そして、みんな和し、階級闘争も、經濟單位の争ひも、眞の非常意識に醒めて、暫く喧嘩を止めてくれといふのが、私の論である。日本人は

チヨツと喧嘩好きである。これは私も知つてゐる。しかし、喧嘩をやるにも、國が無くなつたら、お互ひにやることが出来ない。やる本だけは、お互ひに保存しやうではないか。

私の見込は五年後……その後も勿論、外交國難はあるだらうが、その道行に於て、私は先づ五年を無事に切抜けたら、アトはもう世界的に見通しがつくし、考へるものであります。言葉を換へて云へば、この五年こそ、わが大和民族が世界的使命を果す上に於て、世界的運命の決せられる秋であると斯様に思つてをります。

それでお互ひに總ての國內の争ひを止めて、一人の如く、即ち一國一体となり、建國の初めから傳統的に持つてゐる、有難い一家主義、即ち天子様の五ヶ條を仰いで、この社會は、庶民みな一つの家族であるといふ、歐米には曾つてない、有難い傳統を持つてゐる、わか國民は、何故かういふ危機に際して、傳統に還ることが出来ないのか？ 殆き力と力で打合ふ歐米人は、それだから亡びるのでありその眞似をすれば、われ／＼もその跡を追つて、亡びるだけである。だから、わが傳統に立還つて、暫く喧嘩を止めてもらひたい。それも長いことではない、五年間だ。それとも、諸君は、國家のために、五年間喧嘩を止めるだけの辛抱すら出来ないといふのか？

私は政黨の各位に對し、遺憾だといふ論を持つてゐる一人であるが、深くは云はない。それどころ

か、私は實は、かういふ風に思つてさへゐる。

あなた方の中には、ある政黨を石川五右衛門、又は熊坂長範位に思つてゐる人もあらうが、私はそれでも良いと思ふ。石川五右衛門でも良い、この五年間、國家を背負つて 天子様をお助け申し、無事にこの國難を突破してくれるならば、石川でも、熊坂でも良い。私は明日にも政友會に歸つて國家の爲に草履取りもしよう、國を救つてくれるといふなら……そして、石川でも暫く堪へてやつても良い。五ヶ年濟んだら、後で文句をつける。私は本當に國を救つてくれたなら、五右衛門でも褒めてやる。決して、咎めはしない。私はさう思ふ。ところが、悲しいかな、それを爲し得る者がない。

政黨の無力であることの、據つて來るところに就いては、如何やうに議論があるとも、政黨が現在無力であることだけは、何人も争ふまい。私が、昨日まで屬してゐた政友會の惡口を云ふことは、人間として言ひたくないが、私が解消論を唱へてゐるより、以上に、政友會は、みつともないと思ふ。内閣を倒すことも出來ないし、又、思ひ切つて救ふことも出來ないで、フワリ／＼してゐる政友會だ。(笑聲)

私は斷言する——政黨と雖も國難に際して、國の革正に參畫するために存在するものだ。政黨のため、國があるといふ人は、一人もない。そしてこの非常時に際してこそ、政黨が、大いに國の爲に

働かなければならぬのではないか！ 然るに、この政黨が無力にして働けないとしたならば、一体どうするのか？ もう今こなつては、この國難を切抜くのに間に合ふやうに、既成政黨を改善するとは斷じて不可能である(以下十行餘除く) 近い中に政黨に大命が降るこいふことは斷じてない。然らばさうしたら良いか？ 愚圖々々はいらない。政治家は誰が良い、誰が悪い、そんなことを言ふものではない。あるがまゝの時代を、あるがまゝに見て、借着を脱ぎ捨てるがいよ。借りて來たものは、身に即いてゐない。脱ぎ捨てよ、私と一緒に、日本着物で、出直して來いといふのが、私の主張である。純粹の持つて生れたまゝの日本人に還らう、たゞ 天子あるのみ、たゞ國家あるのみである。さうして、世人は此の境地に入るこゝが出來ないのか？ 之がこの國難に際しての、私の持論である。

△

要は、この非常時の正体を、さうか正視して下さい。この非常時を正視した上、何はサテ置いてもう昭和維新に取り掛からなければならぬ。しかして、之に如何に掛かるべきか——私の唱ふるところが、過つてをるならば、教へて欲しい。最後にもう一度、私はさうか青年諸君に奮起されんことを願ひする。政黨悪を各地方から除いて貰ふことを、願ひするのである。

永い時間、御清聴を煩はして有難うございました。(拍手)(文責在記者)

昭和九年四月七日印刷
昭和九年四月八日發行

【定價參拾錢】

【載轉斷無禁】

發賣所	發行所	編輯人
柳正堂	又新	刑部輔也
甲府市柳町二丁目	甲府市百石町二九九	甲府市百石町二九九

終

